事業所名

でんでん虫の家・町田

支援プログラム

作成日

2025年

2月

7日

法人（事業所）理念		<ul style="list-style-type: none"> ・住んでいる地域の園や学校で、しっかり根を張って生活できる事を願い、子どもに必要な援助を行います。 ・“障がい”故に起こる諸問題について、その解決のために共に考えます。 ・子ども達を取り巻く周囲の状況を見つめ、生活を豊かにする活動を進めます。 						
支援方針		<ul style="list-style-type: none"> ・個別担当療育の実施（専門スタッフが年間を通して変わらずに担当者となり、その子に合った支援プログラムを提案し、実施します。） ～認知言語学習、臨床動作法、音楽療法を中心に、その子に合わせた療法を実施します。 						
営業時間		13時	30分	19時	30分	まで	送迎実施の有無	なし(親御さんに送迎して載きます) ☆毎回の話し合いや報告も療育の一部として大切にしています。
		支 援 内 容						
本人支援	①健康・生活	①から⑤を網羅した各療法を、年間を通してマンツーマン(以上の)体制で実施します。						
	②運動・感覚	<p>認知・言語学習 ～当日の状態(聞き取りでの情報と本人の実際の様子)に合わせて個別指導を行う。個室で机を間に椅子に座り、教具・教材を用いて机上に分かりやすく提示する等、その子に合った環境設定を整えて実施します。 本人の内面の育ち(気持ちや感情、考え方等)を重視します。 必要に応じてSST、学習支援、創作等を、“対人関係”や“やり取り”を大事にし、深めながら取り組みます。</p>						
	③認知・行動	<p>臨床動作法 ～心理療法の一技法である臨床動作法では、自分の体に注意を向け、その時の心の状態に気づき、自分の動きを変えていくという主体的な体験を通じて、自己モニタリング・自己コントロールの向上を目指します。 具体的には、モデルパターンと呼ばれる一定の動作を通して、本人のスムーズな動きを妨げている筋肉の緊張に気づき、それを弛める練習を行います。また、姿勢を保持するための適度な緊張を維持しながら過剰な緊張を弛める練習も行います。その際に、トレーナー(援助する人)はトレーニー(援助される人)の体に手を添え、必要に応じてトレーニーの動きをブロックしたり支えたりしながら、トレーニーが自分の体と心の状態に気づきやすくなるように援助します。同時に、適切な声掛けをすることで、本人と同席する家族が、療育中の体験をモニタリングしやすくなるよう働きかけます。</p>						
	④言語コミュニケーション	<p>音楽療法 ～音楽を通して、バランスのとれた心身の発達を援助します。 セラピストは子どもに寄り添い、支え、そこからの発達を、時には半歩前を出て導いていきます。 その子が持っているテンポ・リズム感・音程・ハーモニー等、音楽ならではの音の機能を使います。 そのような音楽により、子どもは自身の五感を駆使して身体感覚をしっかりとつかみ、自分を感じ、情動の表出・発散・調整や、他者との共感、感情の共有を促されます。また、自己表現やコミュニケーション力が深められ成長していきます。</p>						
	⑤人間関係社会性							

<p>家族支援</p>	<p>毎回の話し合い、面談(子育てサポート)を通して、本人支援と並行して、兄弟関係を含めたご家庭の相談に乗り、家族全体の支援を実施します。</p>	<p>移行支援</p>	<p>学校や地域で豊かに安定して生活を送れるように、そして将来の進路に備え、療育を設定・実施します。</p>
<p>地域支援・地域連携</p>	<p>市内の機関(自立研究研修会や子ども部会等)に所属し、情報共有や勉強会を通して、地域との繋がりや連携を深めていきます。 及び支援会議への参加や提案、相談支援事業先担当者との情報共有を行います。</p>	<p>職員の質の向上</p>	<p>各療法のチーフによるスーパーバイズやOJT、及び外部研修を積極的に受け、学んだことを職員で共有し、療育プログラムの向上に努めます。</p>
<p>主な行事等</p>	<p>高校生遠足や、クリスマス会・芋ほり会・卒業を祝う会等の各種季節行事(コロナ禍以降、縮小及び開催を見送っている行事もあります)及び親の会主催の勉強会(作業所見学会や保護者交流茶話会等)を実施します。</p>		